

りんどうホソハマキの羽化が始まりました。成虫または潜葉痕や生長部の初期の食害が認められたら防除を行いましょう。

現在の状況

1 基準圃場（北上市）では、5月第4半旬に越冬世代の羽化が確認された（表1）。

表1 りんどうホソハマキ越冬世代累積羽化率(北上市 農研センター)

年度	調査時期（月・半旬）						（%）
	4・6	5・1	5・2	5・3	5・4	5・5	
H20	0.0	2.6	11.2	19.1	30.6	43.4	60.8
H21	0.0	0.0	0.0	10.8	16.3	24.3	30.7
H22	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	16.2	27.6
H23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.4
H24	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	7.3
H25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
H26	0.0	0.0	0.0	0.4	0.8	3.1	3.9
H27	0.0	0.0	0.4	1.9	2.7	4.3	6.5
H28	0.0	0.0	0.0	0.4	1.2	3.5	7.2
H29	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	3.8
H30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9		

防除対策

- 重点防除対象は第1世代の卵、幼虫であるので、越冬世代成虫（図1）または潜葉痕（図2）や生長部の初期の食害（図3）が認められたら薬剤を散布する。
- フェニックス顆粒水和剤およびディアナSCは、越冬世代羽化盛期とその10日後に2回散布すると防除効果が高い（平成26年度試験研究成果参照）。
- 前年、アディオフロアブルを使用しても被害が目立った圃場では、上記の薬剤を選択する。
- 産卵の大部分は葉裏に行われるので、下位葉の葉裏までしっかり薬剤がかかるよう、丁寧に散布する。
- 茎部に食入後の幼虫は薬剤防除が難しいため、生長部の被害（図3、4）を見つけたら折り取り、土中に埋めるなどして処分する。



図1 りんどうホソハマキの成虫

図2 潜葉痕

図3 生長部の初期の食害痕

図4 生長部の被害

【利用上の注意】

本資料に掲載した農薬は、平成30年5月16日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://i-agri.net/Index>